

ストラスブールにおける

カンタータオ一番演奏

森井 恵美子

一昨年一月二日(日)に、私はストラスブールの改革教会で、カンタータオ一番の音楽礼拝に参り加りました。シュタイワアーがエルネスト・ミンツェと共に何十曲ものカンタータ演奏をしたのは聖書ヨム(ヘイルヘルム)教会ですが、そこは現在、カンタータは年々三回で、主にパヴェンヤオラトリオ聖ヨローバハ流のソリストと協働の大きな作品を演奏しています。いつの間にか、カンタータによる音楽礼拝は改革教会のものになってしまい、隔月位におこなわれます。この教会は一五三八年にカルヴァンによって創設されたフランスの新教徒たちのための教会を継承するものなので、改革後の教会は他にあつても、ここを指して個有名詞的に「改革教会」といっています。その聖歌隊が今やバツハのカンタータばかりをうたっているのは、おもしろい現象です。

「オ」が番が低いアルサスの葡萄畑の味ならば、このオ1番はシヤンパーニュの明るさでしょう」と指揮者のシャル・ミユラー氏はいわれました。ヒョオをことたかれは、オルガニストとして、指揮者として、音楽院

教授として、長年バツハの音楽をストラスブールの地に培ってこられた方です。今堂わきの別棟にある練習室で、毎月曜午後八ー九時、倒側な練習がおこなわれ、ひとりひとりやどしく握手をされる謙虚なミユラー氏を中心に、一〇〇人ほどのひとひとこの教会の若い牧師さんも有るかなメンバールが、心からバツハを愛して、カンタータをうたいつづけていました。もうバツハの音楽用語は、すっかりおなじみになつてゐるらしく、こうなるとしろうとの合唱でもよこに歌いやしく、味わいの怪いものとなりませす。前日の土曜の夕方、オ1番の会衆の前で(二階チャラー、講壇とむかいあつたところにオルガンと合唱団、コの方の左手にオーケストラ)、本堂に自然な信仰と讃美の歌声として、この幸福のおよめるようなカンタータオ1番が、はらかに演奏されたのでした。

カンタータオ一番解説

アールド・シエーリング

山下 六之 砂訳

バツハは終奏弦楽器群に、三つずつの独奏ヴァイオリン、バスオーボエおよびホルンを加えて、冒頭のコーラルを(受胎告知の)お祝いの気分に分ちたものとした。主題の展開はこれらの三つの独奏楽器群にほとんどまわつた。終奏は合唱部と一致してあるので、曲の構成はまったく明快である。

コーラルの最後の一行「いとたかききみよして、曲はフライマツクスに達する。各声部は異なった動きをみせるが、全オーケストラの伴奏も、ついで「いとたかき」ものに靈感あふれるあいさつを送るのである。オーケストラの後奏は、どこからかてもこの力強い動きにあたいする。

ソプラノの録唱は、キリストの使命の成就、魂の天幕の力の希望を表現している。音楽は、カンタータオ1番「イエスよ、女が魂を、から二重唱「われ弱けれどたけまぬ足どりもてあゆむ」かくりひろげられるのにも似て、強靱な性質の

ものであり、また花びと信賴とにみろている。

テニール 詠唱もまた、バルハのテニール用歌曲のうちでもたまたま最も難しいものの一つであるが、ソスラノ詠唱と同様の、ほこりにみちた花びの心をうたっている。

オニホルンに就するみごとな書法は、豊かに流れる最後のコーラルを一層壮麗なものにしている。

団友から団員の皆さんへ一言

4 原 恵

(青山学院大学専任講師)

コーラスは若を合わせるのと同様に、あるいはそれ以上に心を合わせないとできないものであり、それがまたおもしろいことを痛感しております。皆様の声と心がバルハにおいてひとつにとけ合ってゆくようになります。

5 細川 熊蔵

(都立国立高校長
元、都立三鷹高校長)

森井先生の「指名団友」がもしも私に、立音楽に能なく理解もない私です。からいつ「クビ」になっても一向に不愉快ありません。ただ、私の精魂こめたる鷹の卒業生の入道が楽しくはくみ合ってゆく姿を祝福しています。

6 磯谷 威 (音楽教師)

世中の譽を得られますよう祈ります。月報を

はまみ込むアルバムを作りました。たのしみによませていただきます。

7 木村 泉

(東大大学院生)

月報、たのしみによませていただきました。「団友」とは痛み入るばかりです。ともかく会のご登展を祈っております。

8 樺津 文雄 (牧師)

なにするお氣か、といふおかしんでいたのですが、みごとな胸志です。しっかりと下さい。お役に立つことあれば、助かります。

9 鳥居 忠五郎

(玉川大学教授)

宗教音楽への情熱を絶やさんとなく、優けて勉強なさいして下さい。

コーロワバのまろ

2 バイロイトとニールンベルク

森井 恵美子

この2つの所は、南北約70キロのアウトバーンに直結されています。バイロイトでおこなわれる夏のワーグナー祭に、一九二〇年、二一年と二回行きましたが、ここを歩いたら、どんなワーグナーがいらしたか、ここを歩いたら、どんなワーグナーがいらしたか、人間の創造力の極限のものを感じてくさなう

ふるをえなさい。懐柔ははれもすゆらし。二度目の夏に、帰りのバスに汽車の時間待ちついでに郊外の野道に歩いていたら、オートストゥフと三氣をきかした警官夫妻のオートベル車にのせられて、バンベルクまでたどりついたときのことなど、書き紙面がなく、いつも母台のまろの紹介だけで終りそうなのは、どうも残念です。

ニールンベルクは、戦災にあいながらもエネルギッシュな格闘力であつた中世のメイスクリンガーの町のおもかげを復さうとして、戦後十数年にもなる現在、瓦礫は放置のまま、コッコワと独自のテンポで町づくりをしているその底層の意志には、ドイツそのものを感ぜさせられます。

団員名簿補遺

ソスラノ 有賀長見子

中野之道孝町一八

テニール 坂 聖

中央区日本橋小網町二二四

折本砂穂 K.K. (671) 八五四一

ハス 小笹 和孝

目黒区自由丘七八(モビ.五六八二) 東洋電機製造 K.K.

◎ 合唱団は、来季一月を期して、団員数増加・会場の銀座進出によりまきることになりました。二、三の二ヵ月間、よい団員をひとりでも多く紹介して下さい。

追分行

小笹 和 彦

才一日 (十月六日) 午後六時三十分信濃追分駅着。

泉洞寺泊

「寒い」といって誰かが鼻をすすった。

早秋の追分路は、もう吐く息も白かった。

みんな足を早めてまに向った。

三七年十月六日、バツハ合唱団才一回親睦旅行会
の時のことである。

泉洞寺で、心づくしの夜食を終えて、漸く一同
寢室に別れた。人にも別れた。

そこで歌と笑いが起った。

参加予定の全員が揃ってから自己紹介が始ま
り、続いて討論に移った。

討論は激して採決におよび、結論はでない
よまに、明日の行動を約して床に上った。

やがて、灯おちて虫すたき、吸いこまれるよ
うな静けさがまをおおって、ふと秋の深まりを
感じさせた。

仲間達は、オヤオヤと寝入っていった。

討論の主題 「合唱団の今後」

一、性格について

意見 1 バツハに限らず、尚早な曲もつら
茶店的な雰囲気、初心者もかん
けいしたい。

2 バツハに限定し、高度の技術と、
アカデミックな雰囲気を育成し
たい。

二、規模について

意見 1 現在人員で連帯感のつよい方が
よい。

2 現在人員では不安定だし、曲も
限定されるので八十名程度まで
ふやしたい。

三、練習場について

意見 1 現在人員だけでも狭いので、先生を
至若千増強する(心けよい)

2 交通の便がよく、人員増加にも耐
えられる、銀座のホールを借りたら
どうか。人員を七十名にす
れば会費増額は百二十円ですむ。

四、練習日について

意見 1 現状かよい

2 同じ内容の練習で週二日実施

一日は先生宅でサロンに

一日は銀座で練習本位に
いずれに出席してもよい。

以上が概要であるが、現時点においては

全員が誠実に練習に参加し、合唱団の活動

を軌道にのせること、の先決であると確認した。

なお、意見の一致をみるならば、銀座のホ

ルは明年早々借用することが可能となる。

才二日(十月七日) 榑向山麓の石尊山に登山、

午後五時四方信濃追分登)

高原にて

竹田渡支子

秋探い榑向高原へ 私たちは胸をはって
出発。空は雲におおわれ、氣動れな太陽

は、時折キラッと輝いてくれるだけだった。そ

れども私達は元氣を陽氣。それにちよっぴり

おにんちな氣分。かたせなら、私たちをめぐ

すへてか、秋をささやいていたから。銀色の

すすきは吹く風に頭をかきつけており、乾いた

た草の間からは秋の花の枯し氣に顔を覗

かせていた。多分、多くの詩人や作家達も

同じようにこの径を歩んだことだろう。

しかし彼らは私たちのように、水のはいた大

きなやかんと、お茶のはいた小さな茶壺など

持っていないに違いない。それはお茶壺

の姿に似ていた。

草をすきると落葉松林に入る。樹の緑と

鳥や楓の赤との織りなす「絵」の中を私達は
 声もひそやかに歩いた。大声を出し
 たら、この美しい絵が忽ち情えてなくなりはしな
 いかと心配だったから。わがて径は細くなり
 着飾った木の葉の舞踊会の中を縫いなから
 登ってゆく。どこからか小川と瓦の二重奏も聞え
 てくる。

遂に石巻山の頂上に到着。そこはただの枯野
 で、僅かに紫色の釣鐘草を飾りつけているだけだっ
 た。早暁、徒望のおむすびを頰張る。下界から冷
 い風が白い雲にのせられて吹きあげてくる。苦勞して
 集めた薪木を燃やしお湯をわかす。悲しいことに
 火は時々思い出したようにに各自とりとも燃えだけ
 で燻るばかり。哀れな小羊達は、寒さに震え
 ながら一心にやかんを見守る。幾度もマッチをすす
 むおし、その度に蓋を取って中を覗く。とうとう
 う何回目にやかんから懐かしい白い湯気が立つのを
 見ることができた。大袋でさきさきとお茶を入
 れて乾杯する。燃えない火を囲んで唇をすぼり
 冷い手をあたためながら啜るお茶のなんと美味し
 かったことだろう。あちゆるあちゆるの秋の味かしら。
 その時丁度接吻山が雲の切れ目からくつきりと
 姿を現わし、私たちを歓迎してくれだ。

出席者

- 森井先生
- 小山 洋子
- 高橋 久美子
- 竹田 敏文子
- 長谷川 照子
- 松本 京子
- 小笠和彦
- 高橋信昭
- 前川忠寛
- 箕浦正敬
- 山下広之

(十月出席統計)

平均	28日(トナリ)	21日	14日	7日(レクリエーション)
4	4	4	4	4
4.3	5	4	4	1
4	3	4	5	1
4.3	4	4	5	4
17	16	16	18	10

(十月会計報告)

収入(20人分)	6060
支出	
通信費	290
10月号月報	800
お菓子	680
賞品(封筒)	140
「礼拝と音楽」	870
(一冊分)	
ホケストラ用楽譜	450
ホケキス	100
	3330
前月より繰越	590
総計	3320

団員アンケート

(5)

1. D 竹田 敏文子 三三二
2. 都立三鷹高校 竹早 教員養成所
3. 高校の音楽部・竹早さんの歌声合唱
4. どこでも口ずさめるもの。心かほのほのとなる
 ような歌
5. 室内装飾(ひまわり)はお部屋の模様かえ
 をしています。ぬいぐるみの物物づくり
6. 感激型。時々空想の世界をぐまよいます。
 て、時間をそんじます。
 われながら子供じみてはかかっていると思っていますか。はるか昔かきやて人前に出るの
 苦手。
7. 情うかてやさしい乙女。幼稚園の先生で
 小悪魔たちにとひつかれたりわめかれたり
 大変なのでしょうか。大人であるわれわれは
 この人の前であらうらしいことはとてつとて
 ません。世界の平和も、こういふ方々の底力
 によって支えられるのでしょうか。